

## ロゼッタネットジャパンの設立まで

1999年12月8日、東京・御茶ノ水スクエアにおいて、電子商取引の啓蒙団体であるコマースネットジャパン (CNJ) 主催のセミナーが、ロゼッタネット (RN) の創設者でありCEO (当時) のFadi Chehade氏を迎えて開催された。当初の予想を大きく上回り200人を超える参加者で盛況であった。会場の熱気は、関係者をしてロゼッタネットジャパン (RNJ) 設立の成功を確信させるに十分なものであった。

日本電子機械工業会 (EIAJ=現電子情報技術産業協会) のECALSプロジェクト関係者から、CNJ (コマースネットジャパン) 事務局にロゼッタネットジャパン設立についての相談があったのが同年の10月である。ロゼッタネットから、EC業界における技術辞書としてECALS辞書採用の申し入れがあり、それを契機に日本においてロゼッタネット活動を立ち上げたいので協力して欲しいというのがその趣旨であった。

当時、CNJでは、ロゼッタネットを米国のIT (情報機器) 業界における先駆的な取り組みとして、2回のセミナーを開催するなどその紹介に努めていたが、IT業界では国内取引が中心であり、国際標準規約の採用には消極的であった。

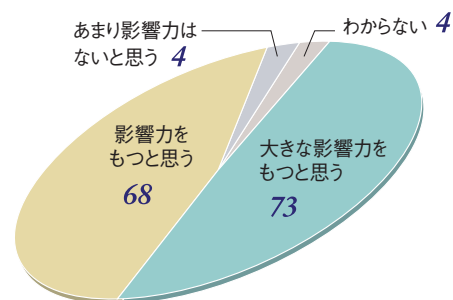
これに対して、グローバル取引が中心のEC (電子部品) 業界は、国際的な標準の採用への意欲は高く、EC業界から下流のIT業界へとロゼッ

タネット標準の普及が進むことが期待された。とはいえ、日本におけるロゼッタネットへの評価は未知数であったため、冒頭のセミナーを企画して参加者の反応を確認することとなった。

セミナーの成功を受けて、2回の渡米を含む米国ロゼッタネットとの交渉や5回の準備会議を経て、「ロゼッタネットジャパン」設立の準備は急ピッチで進められた。CNJやEIAJ参加企業のほか、すでに米国のロゼッタネットに参加していたインテルなどが加わり、00年3月30日の設立記者発表時には、31社が発起人として名前を連ねることになった。その後参加企業は続々と増加し、4月24日にはボード会員16社、パートナー会員31社、計47社をもって、ロゼッタネットジャパンがスタートした。

ロゼッタネットの活動は、米国・欧州・アジアとグローバルに拡大し、ハイテク業界を軸にして発展してきたが、今では物流・金流の分野を巻き込み、そのターゲットとする業務プロセスも、受発注プロセスから、需要予測や部品情報交換、保守・運用への適用も始まるなど、真の意味でのグローバルサプライチェーンの構築を可能にするものへと成長した。ロゼッタネットのグローバルな活動のなかでも、ロゼッタネットジャパンはロゼッタネット標準実装の拡大やロゼッタネット標準開発でロゼッタネットを支える大きな役割を担うまでに成長した。

### ロゼッタネットは御社e-ビジネスに何らかの影響をもつと思うか？



CNJセミナーでのアンケート結果 (数字は回答者数)